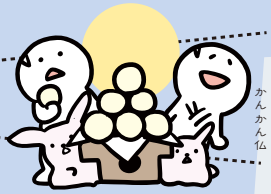

洗橋下の怪「米とぎチンジョキジョキ」

ずーっと以前の頃の話です。ある月のない、やみ夜のことでした。二人づれの婦人が、ペチャクチャと話しながら、洗町から、洗町を通り過ぎる時、ひとりの婦人が、もうひとりの婦人に、こわごわと、

「この橋の下には、昔米とぎの化け物がいたそうねー。」

と、話しかけました。ところが、その言葉が、終るか終らないうちに、怪しい声が橋の下から、きこえてきました。

「いまもおります、チンジョキジョキ。いまもおります、チンジョキジョキ。」

橋の上の二人の婦人は、

「キャーッ。」

と叫び声を上げ、びっくり仰天し、真青になりました。そして、ガクガクするひざをこらえながら、後になり、先になって駈け出し、ほうほうの態で逃げ帰ったということです。

この橋の下の化け物の正体とは、宮越や川原の、水守の人で、その時刻に橋の下にいて、持っていた鍬をたたいたり、石垣でこすったりして、チンジョキジョキと、音をたててておどかした、ということでした。

（採話：持田地区　永友千秋）

うらへ

定期的に発行します
保存してね！

高鍋町制施行120周年

ここにも「ちんじょきじょき」はいた Map

洗橋下の怪「米とぎチンジョキジョキ」Map

ここにも「ちんじょきじょき」はいた

小丸から旧小丸橋を渡って、坂本の入口から右に折れると、下持田に通ずる道があります。

昔は、左は椎の木の生い茂った突き出した山で、右は葦のぼうぼうと生えた河原でした。この突き出した所を御崎ヶ鼻と呼んでいました。

ここを過ぎると、左は一面の田圃、道の右手は深い用水路が流れていて、山手の方からの小川が合流してせせらぎの音が聞こえていました。

人家もないのに、道端の草むらの中に小さな古い墓が二、三基見える何かわけありそうな寂しい所でした。

私も子供の頃、仲間といっしょによく蛍とりに行ったものです。ここの蛍は大きくて、大きな蛍がたくさん飛んでいました。

でも、せせらぎが聞こえると、

「ここから先は怖いから行かん。帰ろうよ」

と言う者が出て帰ったのを覚えています。

怖いというのには次のような言い伝えがありました。

墓の前を通ると、ちんじょきじょきと米をとぐ音が聞こえるかと思うと若い女の声で、

「赤ん坊ー抱いて下さい」

と呼びかけるそうです。かわいそうにと抱いてやり、気がつくと墓石を抱いていたというのです。

何人も墓石を抱かされたというので、暗くなると人通りも絶えていたとのことでした。

村の婆さまは、

「女の人がお産がうまくいかず亡くなり葬られると浮かばれないよね。きっとこんな人の墓ではあるまいか」

と話してくれました。

（採話：後小路　上野誠三）

町内複数の場所に「ちんじょきじょき」の話が伝えられているのは興味深いですね〜。

「たかなべ 伝・伝 Returns」の発行には、まいづるカード会のご協力を頂いています。

令和3年9月17日発行　発行　高鍋町教育委員会　社会教育課　高鍋町大字上江8335番地2　TEL 0983-23-3326

デザイン・イラスト：ごとうきよ